

令和 2 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

令和2年度 学校評価

[各校の重点取組について]

一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自立の精神に富んだ心豊かで逞しい人間の育成を目指す。学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校作りを推進する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3	3
取組とその成果 ・ コロナ禍で学校が臨時休業を強いられる中、生徒の学力保証のためGoogleクラスルームを利用し、生徒とのコミュニケーション、ICT教育の推進、授業改革に取り組んだ。また、スタディサプリを利用して、学力の定着をはかった。 ・ アクティブラーニングを授業の中に取り入れ、自ら学び考える教育に取り組んだ。また、探求の授業を通じ、総合学習ではSDGsを題材に対話型の授業を行ったり、企業とのセッションを行うなど新しい取組にも挑戦した。教師が一方向的に教えるのではなく、生徒に考えさせた後、ペアやグループで教えあう授業スタイルを取り入れたことで、コロナ禍ではあるが、生徒の積極的な姿勢や、自信を持って発言する様子も、普段より多く見られた。 ・ 配慮の必要な生徒に対する対応について、特別支援教育コーディネーターを中心に支援計画を立案し、情報の共有、指導の方向性をまとめいった。また、SCやSSWとの連携を密にし、生徒理解に努め、チームで指導に当たれるような体制作りを強化した。 ・ 保健体育の授業において、ICTを利用して臨時休業中にも可能なトレーニングの授業発信を行った。また、随時内容確認プリントを作成して、学習内容の理解度をはかった。不十分な理解度の項目が明確となり補足をすることができたので授業改善に大いに役立った。	課題と改善策 ・ ICTに関しては、Googleクラスルームとスタディサプリを中心に取り入れたが、環境の整備が追いついていないことと、教員の意識に差が大きいことが課題である。引き続き教員を中心とした研修を行い、有効な教育活動を模索していく必要がある。 ・ 教材の中で課題や問いを個人やグループで検討する取り組みは行っているが、テーマに対して課題を設定し探究していく授業は通常の教科の授業では行っていない。次年度は年間のシラバスを作成する段階で、探究型の授業を行うテーマや時間を設定していくよう工夫する。 ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、外部機関との協力体制、配慮の必要な生徒に対する支援の方法や評価の工夫など合理的配慮についてのさらなる研修が必要である。 ・ 今年度は臨時休業の影響もあり、生徒の体力低下が見られた。保健体育の授業では無理のない指導計画を立案し、生徒の健全な身体作りを目指す。部活動においては、怪我防止の工夫、改善が求められる。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3
取組とその成果 ・ 学校再開後、学校生活に対応できない生徒が多く対応に苦慮した。欠席、遅刻が目立つ生徒に対しては早期に家庭と協力して改善されるように指導した。また、保健部による心身を健康に保つための啓発活動、不調を訴える生徒へのケア等きめ細やかなサポートを行った。 ・ 個人面談、三者面談を行い、悩みや不安改善に取り組んだ。日頃からの声かけに注意して、よりよい学校生活を送ることができる安全な環境作りに努めた。 ・ クラス、部活動などで良好な人間関係が築かれるよう、1人1人を大切に作る集団づくりを目指し実践した。また、法の遵守、善悪の判断、思いやりのある行動など、道徳性の高い生徒を育てていく努力を怠らなかつた。 ・ 人権学習では、他者の価値観に触れることで自身の視野を広げ、コロナ禍における人権について深く学ぶ事ができた。、自ら考え発言し、道徳や人権に対して、優しさや慈しみをもって考えることができる生徒が増えてきた。 ・ カウンセリング委員会を定期的に開催し、生徒全体あるいは個人の情報について共有を深め、いじめ等の早期発見に努めた。 ・ 人間関係に問題が生じた時は、管理職、学年、生徒指導部、養護教諭等が連携し、組織的な対応を行った。家庭との連絡も密に行った。 ・ 教育活動全体を通じてキャリア教育が推進されるよう、生徒1人1人の目標、人生設計を大事にした、計画的なキャリア教育、進路指導を実践した。	課題と改善策 ・ 本年度は学校行事が減り、ペアワーク・グループワーク等の制限や昼食時の会話禁止等、クラスや学年の活動も制約があったため、生徒が人間関係を築き、コミュニケーションをとって活発に行動する機会が少なかった。次年度は、コロナ感染症対策を取りながら、オンラインを利用するなどして行事の実施できるような工夫をし、生徒の活動範囲を広げていく必要がある。 ・ 人権学習はオンライン講演で行ったため、機材の質が十分でなく、後方の生徒が聞き取りづらかった。今後もこのようなオンライン形式で行うことは予想されるので、ICT環境の整備が急がれる。 ・ カウンセリング委員会で挙げられた生徒情報を、関係する教員間で共有し、学年や部活動の顧問の教員と連携しながら問題を解決していくよう、早期から支援していくシステム作りが急務である。 ・ 生徒の自己有用感、自尊感情を高め、いじめの未然防止に努め、いじめを許さない学校づくりに努める。 ・ 入試改革の時期を迎え、情報の収集を怠らず、生徒一人ひとりの希望に添った進路実現のために、計画的なキャリア教育、進路指導を行っていく。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.7	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な研修を実施し、教職員の資質向上を図るとともに、連携の仕方を工夫し、組織的に何事にも対応していける学校にしていく。 ・ 「いくしあ」との連携を図り、生徒の支援を密に行った。今年度は特に、SSWに定期的に来校していただき、生徒の情報共有やアセスメントなどを行っていただいた。 ・ 教科内でICTを用いた授業実践の情報を共有し、各学年及び科目で有効な方法を練りあい、授業の質向上に努めた。 ・ 本年度はコロナウイルス感染に対する対策の為、地域との連携的な事業はほぼ行われていないが、生徒会を中心に7月豪雨災害支援募金活動等・ボランティア活動に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒理解に関する職員研修は計画的に実施できた。今後も引き続き教職員の資質向上を目指し、研修テーマを幅広く設定し体系的・継続的な研修に取り組んでいく。 ・ 教員が疲弊感を感じながらも、業務分担できていない。学年内や、学年と部の連携を深め、副担任や部で担う仕事の整理を行い、担任の負担軽減を図りつつ、組織的に問題に対応できるような体制作りを行っている。 ・ 地域に根差した市立の高校として、地域の取組を知り、協力し合える方法を模索すべきと考える。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.6	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ感染拡大を防ぐため、保健部が中心となり感染防止対策を推進し、生徒にその意義を理解させ、自主的に取り組むよう指導を行った。登校時の手洗い指導、昼食指導、清掃時の消毒の実施など、生徒が自主的に行動できるよう習慣付いた。 ・ 生徒指導部や生徒指導係を中心にした自転車登校指導、近隣の踏切や交通量の多い交差点への見回りの実施により、生徒の登下校のマナー改善が見られた。 ・ 防災訓練を定期的に行った。また学年通信に防災意識を高める記事を掲載する、クラスでの講話を行うなど、過去の震災時の状況を理解させ、危機下に自己や他者を守る動きをとれるよう考えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス予防対策として、密を避ける・消毒・マスク・手洗い・昼食時のマナーなど学校をあげて取り組むことが出来た。新しい生活様式の中で、教育活動をいかに行っていくかが課題である。 ・ 今年度は学校再開直後の登下校中の自転車事故が多かった。事故を起こさないようにするための指導がさらに必要である。また、事故の際の対応の仕方についても具体的に指導しておく必要がある。 ・ 防災訓練については、今年度はコロナ禍で避難訓練も簡易なものとなったため、十分とは言えなかった。地震・火災・津波それぞれにおいて、事故発生状況も様々な場合を想定し、生徒や教員が対応できるように実施方法の工夫が必要である。 ・ 地域避難所になった場合の校内備蓄の整備、職員の役割など再検討する必要がある。 	

教育目標 一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自立の精神に富んだ心豊かで逞しい人間の育成を目指す。学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校作りを推進する。 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	2.7	3
取組とその成果	課題と改善策	
・心身ともに健やかな人間の育成のために、生徒の話を聞き、立場に寄り添っていき姿勢を教員間で共有できた。そのことにより、生徒の悩みやトラブルに対して組織的に丁寧に対応していくことができた。 ・進路実現に関して、生徒とは面談や集会での講話を、保護者とは面談、保護者会を通して、情報提供や話し合いを行った。一人一人の希望を大切に、希望進路実現に向け、計画的な取り組みを実施した。 ・今年度は学校行事、学年行事が行えなかった分、授業において意見交換や協力して取り組む課題を多く取り入れ、生徒がいきいきと授業に取り組み、コミュニケーションを深められるよう留意して授業を行った。 ・クラス・学年でボランティア活動を行いたい生徒を募り、早朝や放課後の清掃活動に取り組んでいる。 ・主体的・対話的で深い学びの実現のために、生徒に自分で考えさせる時間を多く与えるように努めた。 ・コロナ禍の中においても、文武両道を目標に、補習時間・部活動時間を可能な限り確保し、努力を続けている。 ・「体育に関する知識や高度な運動技能の習得を通じて、知・徳・体の調和の取れた人間形成を目指すとともに、体育・スポーツの振興に寄与する態度を育てる」ために一人ひとりの状況に応じた適切な指導を行い、運動部としての競技実績の向上に努めた。	・生じた問題に対してどのように解決を図っていくかについても研究、研修を行い、怪我、事故、問題行動、いじめなど様々な問題に対して、どの教員も対応に対する正しい認識を持つ事に加えて、組織的な対応ができるような体制づくりが求められる。 ・学校再開後すぐに、入学生は学校生活に慣れる間もなく2年生以降の進路に関して考えなくてはならず、唐突な印象を受けたようであった。ゆっくり寄り添う時間が持てなかった現状がある。個々の希望や適性をよく聞き取り、一人ひとりの希望に即した進路指導が求められる。 ・コロナ禍ゆえ、学校行事が少なく、生徒たちの精神的成長の場を与えることがなかなかできなかった。今年度は実行できなかったが、オンライン文化祭等で代替行事を行うことが一つと考える。 ・「知・徳・体」のバランスの取れた人間形成を目指していこうという体育科の原点を確認し、教員間で授業研究や指導法研究など発表し合い、休業期間を有効に使うことができた。部活動においては、活動ができない中でも個々の課題に向かって、創意工夫をしながら、競技力の伸長をはかった。	

研究テーマ 「 コロナ禍におけるICT教育の推進 」 (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	2.6	3
取組とその成果	課題と改善策	
・臨時休業期間中にClassroomやスタディサプリでオンライン学習の環境を整備し、生徒の学習環境を改善した。ICT教育を推し進めることができた。尼崎市教育委員会に「スタディサプリ」を導入して頂き、授業の予習・復習、長期休業中の課題、英検の試験対策に利用した。また、classroomを利用して、日々の健康観察や生徒への連絡、アンケート等を行った。特に1年生は休校明けに学校に慣れるまで、毎日学年の教員がclassroomに日々の連絡を送り、スムーズな高校生活スタートが切れるように促した。 ・入学時のオリエンテーションの一部として、クラブ紹介をオンラインで行った。各部工夫して映像を作成した。 ・臨時休業以後も、パワーポイントを用いた映像授業や課題を作成し、Classroomで配信した。Googleフォームを用いて、アンケートや小テストを来年度の科目登録などに活用した。 ・体育授業において映像を用いながら、技術の習得を図った。 ・zoomによる学校説明会の参加、資料の提示にICTを利用するようになった。	・生徒のICTスキルや家庭でのIT関係の設備に差があり、全生徒に同じような対応を求めるのが難しかった。また、生徒自身がIDやパスワードを記憶していない等、ITリテラシーに欠ける場面が多々あった。管理方法はパスワード管理ツールの紹介も含めて、教える必要がある。 ・学校のインターネット環境が十分ではなく、自由に使用できるタブレット機器がないこと等、ICT教育に関して、全て教員や生徒の私物に頼る状況が続いている。現在は学年フロアに1～2台の大型スクリーンしかなく、各クラスで同時に授業で使うことができない。ICT教育を推進するのであれば、環境整備を先に進める必要がある。各教室で気軽に資料が提示できるスクリーンやモニター、教師に割り当てられているコンピュータのバージョンアップ等が早急に求められる。 ・スクリーン及び生徒用のタブレット端末、その他校内のICT環境が整えば、授業で容易に映像を見せたり、調べ学習を行ったり、意見の集約を行ったり、学習内容を発展させることが可能となる。そのためのICTを利用した授業研究や研修を行い、職員の意識を高めていく必要がある。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準
4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない
3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・コロナ禍において、時代の流れに合った教育活動に積極的に取り組んでいる。ICTを巡る学校の環境整備については、出来るだけ早く改善していただきたいと思う。新任教員とベテラン教員、または年齢や経験により、特にICT機器への対応については意識格差が大きいと思われるので、必要な研修教育などを計画的に多数実施していただきたい。</p> <p>・HPをもっと活用し、学校で行っている教育活動等もっと外に発信する工夫をしていただきたい。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・長期休校や学校行事の減少によって、教員と生徒、また生徒同士のコミュニケーションの機会も少なく、心のケアが必要な生徒も増えていると思われる。そのような中で学校が生徒により添いながら一生懸命に取り組んでおられる様子もわかりました。</p> <p>・引き続き、カウンセリング委員会での生徒の情報共有と人権学習を強化し、いじめゼロの学校を目指して欲しい。</p>	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・予算の関係で難しいかもしれないが、外部人材を雇うなど、業務改善・教育水準の向上を図っていただきたい。</p> <p>・家庭・地域・学校の連携を深めるためにも、さらなる情報発信とオープンな学校を目指して欲しい。</p> <p>・行事を通じて、学校間の連携をより進めてみてはどうでしょうか。文化祭や体育祭への小学校児童の参加など他校種との交流を検討してみてはどうでしょうか。市生への憧れも感じ、キャリア教育にも繋がるのではないのでしょうか。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>コロナに対する感染対策を徹底している様子がよくわかった。引き続きお願いします。 登下校中の自転車事故の多発については、さらなる指導と意識向上による改善をお願いしたい。</p>	3
<p>■教育目標：一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自立の精神に富んだ心豊かで逞しい人間の育成を目指す。 学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校作りを推進する。</p> <p>・引き続き、生徒が相談しやすい環境を整え、いじめ・体罰を根絶するための啓発・研修に引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>・令和3年度も、コロナ前の状態に戻るとは考えにくいので、学校として創意工夫しながら生徒が仲間とのコミュニケーションを図ることのできる学校生活・行事を創っていただき、生徒の希望進路が実現されるよう学校運営に取り組んでいただきたい。</p>	3
<p>■研究テーマ「コロナ禍におけるICT教育の推進」</p> <p>・Classroomやスタディサプリでオンライン学習を取り入れるなど、先進的な取り組みで素晴らしいが、学校における環境整備が追いついていないのが残念だ。生徒を取り巻くICT教育環境は急激に進歩している。教える側の研修も急がれるが、生徒の学習機会を確保するため早急に環境を整えて欲しい。</p>	3
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B